

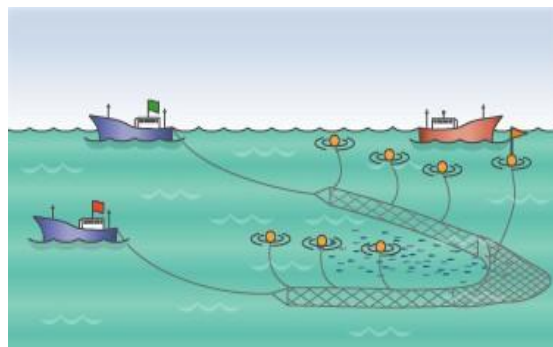
【大項目】

兵庫県のイカナゴの新仔（シンコ）漁について

兵庫県では、2隻の漁船で網をひく「船びき網漁業」でイカナゴの新仔を漁獲します。漁獲されたイカナゴの新仔は、運搬船により漁場から漁港にすぐに運ばれます。

イカナゴの新仔は遊泳力が発達していないため、潮目に集まります。この潮目が漁場となります。潮目は基本的に2つの水流がぶつかっているところです。潮目は、地形や汐の干満、季節風などによりできます。

イカナゴの新仔は、主に「釜揚げ」「くぎ煮」として消費されています。近年、生のイカナゴの新仔を購入して自宅で「くぎ煮」を作る風習が、県内の瀬戸内海沿岸全域に広がり、各家庭の味として地域に定着した春の風物詩となっています。



【中項目】

播磨灘・大阪湾のイカナゴの生活について

1. 産卵・ふ化

イカナゴの親魚（兵庫県ではフルセと呼ばれています）は、12月末～1月初旬に海底の砂に卵を産み付けます。主な産卵場は、明石海峡から播磨灘に広がる「鹿ノ瀬」や「室津ノ瀬」と言われる広大な砂地ですが、大阪湾でも「沖ノ瀬」と言われる産卵場があります。

卵は砂にくっついたまま10日ほどでふ化します。ふ化したイカナゴの子供は全長4mmあまりです。海中をただよい、海の流れて乗って播磨灘、大阪湾へ広がります。



2. 子供時代

2月末～3月初旬になると、全長3cm程に成長し、船びき網で漁獲されるようになります。この頃のイカナゴは活発に餌（プランクトン）を食べて、どんどん成長します。

3. 夏眠・成熟

6月～7月頃になると、イカナゴは海底の砂の中に潜って活動を停止します。これを「夏眠」と呼び、水温20℃前後で起こると言われています。イカナゴはこれ以降餌も取らず11～12月まで砂の中でじっとしています。

12月中旬になって水温が13℃を下回ると、イカナゴは砂の中から出てきて、満1歳となる頃に親となって成熟し、産卵します。

大きさは満1歳で体長9～10cm、2歳で体長12～13cm、3歳で体長15～16cm程になりますが、瀬戸内海では3歳くらいが寿命と言われています。

【中項目】

兵庫県のイカナゴの資源管理の取組み

兵庫県と大阪府の漁業者は、①イカナゴ資源を守り、末永く皆さんに食べ続けてもらいたい、②皆さんに新鮮でおいしい「旬」のものを的確に提供していきたいという思いから、毎年お互いに相談し、網おろし（解禁）日や操業時間などを取り決めることで、イカナゴの資源管理に取り組んでいます。（もっと知りたい方は、関連資料の「網おろし（解禁）日が決まるまで」をご覧ください。）

【関連資料】

- 網おろし（解禁）日が決まるまで